

1. 第3次総合計画における施策の体系								
目指す都市像(政策)	番号	7	名称	快適な生活を育むまち				
施策	番号	8	名称	自然環境・歴史的環境の保全				
主担当部	まちづくり部		主担当課	都市整備課		部長名	中尾 至宏	
関係部			関係課					
2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)								
この施策の目的	豊かな自然環境及び貴重な歴史的環境を保全し、市民と行政の協力により後世へと引き継いでいくことを目的とする。							
3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)								
この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について			社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について				
	本市は、大和盆地に位置し、大和三山や貝吹山等の自然の中にあつて、藤原宮跡などの貴重な歴史的資産を有している。観光資源としての価値も高く、美化促進の要望が強く寄せられており、市民のみならず観光客等、来訪者からの期待に答えることが求められている。			世界遺産登録推進の取り組みが活発化する現況にあつて、多くの構成資産が点在する本市においては、その資産の整備のみならず、道路や河川の景観保全についても積極的に推進を図らなければならない。				
これまでの成果	参道の森や飛鳥川の桜並木など、橿原を代表する特徴的な景観の保全活動により、橿原らしい自然環境・歴史的環境が保たれている。							
4. 指標及びコストの推移								
	名称及び単位等	23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	備考欄
		実績	目標	実績	目標	目標	目標	
指標の推移	施策指標①(成果指標)	市域内緑地率	32.4%	35.0%	32.4%	35.0%		
	施策指標②(成果指標)	橿原らしい景観が作られていると感じている市民の割合	24.8%	30.0%	30.8%	30.0%		
	施策指標③(成果指標)							
	施策指標④(成果指標)							
	施策指標⑤(成果指標)							
コストの推移(単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	見込み
	歳出(直接事業費)(a)		2,420	2,520	2,520	2,520	2,520	
	歳入(b)	受益者負担額						
		国や県からの補助金その他						
	(a)-(b)=一般財源		2,420	2,520	2,520	2,520	2,520	
	正職員	従事者数(単位:人)	0.35	0.50	0.50	0.40	0.40	
		人件費(c)	2,192	3,102	3,102	2,481	2,481	
	トータルコスト(a)+(c)		4,612	5,622	5,622	5,001	5,001	

5. 施策の評価						
有効性の評価	この施策の 成果の達成度かどうか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の 可能性かどうか	2	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	環境美化の取り組みなどが着実に進められたことにより、檀原市の景観が良好であると、市民の実感が高まりつつある。市民の意識の向上にともなって、協働による美化推進の活動に関心が寄せられてきており、相乗的に成果が向上する可能性を秘めている。				
	市政全般に対する 貢献度かどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	本市における自然環境、歴史的環境は市民生活に密接しており、非常に身近な存在であるゆえに、環境を保全する事業は、日常の生活に豊かさの実感をもたらしている。				
6. 施策の課題						
この施策の課題	保全事業の効率的な運用を徹底するとともに、市民の自発的な美化活動を支援することで、協働の輪をひろげていくことが重要である。また、守り育まれてきた自然景観を維持するためには、新たな植樹の推進をはかるほか、老木の更新や枯損等の箇所へ補植していくなどの取り組みを展開しなければならない。					
7. 次年度以降の施策の方向性						
総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	2	1 強化する	2 維持する	3 縮小する	
	説明	環境保全事業の効率化に努め、継続して美化促進に努めるとともに、緑を創出することについても、積極的に取り組んでいかなければならない。				
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する	
	説明					
8. 構成事業の方向性 (それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する)						
1次評価	説明	環境保全事業は、市民にとって大変価値のある重要な資産を保全するものであり、果たすべき任務は重要と判断されるため、今後さらなる事業の幅広い展開が求められる。				
2次評価	説明					

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

(ソフト事業、内部管理・維持管理事業)

課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類 (転記)	事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
					貢献 度	方向性	優先度 (ソフト任意)
都市整備課	○ ソフト 義務	飛鳥川堤桜並木の下草刈、清掃等による桜維持管理業務を桜愛護会(7自治会)と委託契約により実施する。また、橿原神宮参道沿いの植栽剪定や、草刈り等の取り組みを行う参道の森環境美化協議会に交付金を交付し活動を支援する。	2,520	2	b	見直しながらかつ続ける	B
環境保全事業	内部管理・維持管理						

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月6日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業	
事務事業名	環境保全事業						
担当課名	都市整備課			課長名	黒岩 友治		
総合計画の位置付け	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち				
	施策	8	自然環境・歴史的環境の保全				
予算事業名	緑化推進事業費						
事業の開始年度	平成	—	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度
対象	飛鳥川堤桜並木、榎原神宮参道の森の景観を楽しむ人			事業の内容説明	飛鳥川堤桜並木の下草刈、清掃等による桜維持管理業務を桜愛護会(7自治会)と委託契約により実施する。また、榎原神宮参道沿いの植栽剪定や、草刈り等の取り組みを行う参道の森環境美化協議会に交付金を交付し活動を支援する。		
事業の目的	飛鳥川堤桜並木、榎原神宮参道の森の環境保全を図る。						
この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業			
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業			
3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業						
	説明	観光立市として、「道百選」にも選ばれた市が誇れるシンボルロード榎原神宮参道、また、万葉集にも詠まれた飛鳥川の環境保全に取り組むことでもたらされるイメージ効果は多大である。					
この事業を行うことは妥当か	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない	
			説明 飛鳥川の桜並木、榎原神宮参道の良好な景観維持が困難になる。				
指標の推移	名称及び単位等	23年度	24(評価)年度	25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	—	—	—	—	—	—	
活動指標①	桜愛護会役員会出席回数	1	1	1	1	1	
活動指標②	参道の森環境美化協議会総会出席回数	1	1	1	1	1	
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み
	歳出(直接事業費)(a)		2,420	2,520	2,520	2,520	2,520
	歳入(b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
	(a) - (b) = 一般財源		2,420	2,520	2,520	2,520	2,520
	正職員	従事者数(単位:人)	0.35	0.50	0.50	0.40	0.40
		人件費(c)	2,192	3,102	3,102	2,481	2,481
	トータルコスト(a)+(c)		4,612	5,622	5,622	5,001	5,001
単位当たりコスト	計算式等						
備考(これまでの実績等)							

PLAN
計画

DO
実施

CHECK 評価	有効性 評価 事業は 有効か (指標に 出ない 効果)	成果は 向上して いるか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	檀原市内において有数の観光スポットとして定着している。						
	上位施策 への貢献 度はどう か	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	自然と歴史を守り育むシンボリックな取り組みと評価できる。						
評価	効率性評価	2	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる			
	経費削減は可能か	説明	年間の清掃等維持管理回数を必要最小限度にて算定している為、コスト低減は困難である。						
ACTION	具体的にどうする ことにより(手段)	市民等のボランティア精神によって、活動が維持されてきているが、取り組みの輪が広がるような行政の支援によって、活動が豊富になることが期待される。							
	どんなことが期待 できるか(効果)								
修正 行動	(費用も含み) この事業の 今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内 優先 度	B		
		4 廃止又は休止する	5 完了する						
	説明	環境保全活動の効果的な展開を研究しつつ、事業を継続して取り組む。							